

## 審議会等の会議の概要の記録

会議の名称	令和5年度第1回介護保険運営協議会
開催日時	令和5年7月3日 午後3時～午後5時15分
開催場所	甲州市役所1階 市民ギャラリー
議題	(1) 令和4年度介護保険事業実施状況について (2) 第9期介護保険事業計画の策定について (3) 甲州市地域包括支援センター運営方針について (4) その他
出席委員	坂本昇委員、深澤告委員、天野真由美委員、山本充委員、 田中千絵委員、早乙女修一委員、手塚友則委員、雨宮美代子委員、 宮原健一委員、岡村久美子委員、雨宮正明委員、中村文雄委員
会議の公開又は非公開の区分	公開
会議を一部公開又は非公開とした場合の理由	
傍聴人の数	0人
審議概要	別紙のとおり
事務局に係る事項	介護支援課 5名 TEL:0553-32-5066
その他	市長から12名に委嘱状を(任期:令和5年度～令和7年度) 会長に被保険者代表の深澤告委員が選出、承認された。 会長より会長職務代理に公益代表の岡村久美子委員が指名された

## (1) 令和4年度介護保険事業実施状況について

事務局 (1) について説明

委員 ・要支援・要介護認定者について、新規に介護保険を申請する方の傾向はあるか。

事務局 ・新規申請の相談は、包括支援センターの窓口で担当している。一概には言えないが、最初から介護が必要な方もいるが、最近の傾向としては要支援前の軽度の方からの相談が多い。

委員 ・なるべく早い段階から支援につなげる必要があり、通所型サービスなどを活用した介護予防が重要であると認識している。

・通所型サービスのももたろう塾は大変良い事業であるが、高齢者が見ても分かりやすい周知方法を検討していただきたい。

事務局 ・市民への案内として、広報に年1回お知らせを掲載している。また、要支援認定を受けた方が対象となるため、ケアマネジャーからの案内が多い。

・その他の支援サービスとして生活援助サービスや、ふれあいペンダント（緊急通報システム）があるが、関係者と連携しながら案内している。

委員 ・社会福祉協議会も多くの事業を実施しているが、連携して実施しているのか。

事務局 ・生活支援体制整備事業は、住民や民間事業者と市が連携し、多様な主体で支えていくことを目指した事業で、社会福祉協議会へ委託し、生活支援コーディネーターを専任で配置して、地域づくりをお願いしている。

・高齢者の見守りや移動の問題などは、行政も一緒に考え、実施する必要があると認識しており、社会福祉協議会への委託ではあるが、共に連携して進めている状況である。

委員 ・独居老人の病院への通院について、タクシー券はどの程度配布されているのか。

・もの忘れ相談事業について、開催件数が少ないが、周知方法、対象は。誰でも相談できるのか。

事務局 ・タクシー券の利用枚数は、延べ231枚となる。1枚740円のタクシー券を2枚/月交付している。対象は65歳以上の在宅生活者で要支援、要介護認定を受けている方となり、約20名が利用している。

・これは閉じこもりがちの方々に外へ出ていただくための事業であり、必ずしも、外出の移動支援が目的ではない。そのため、病院への通院のついでに、買い物などにも行っていただくことを目的としている。

・もの忘れ相談事業は、包括支援センターで完全予約制で月1回×2人=24人/年で予定していたが、予約のない月もあった。ご指摘通り、活発な利用にはつながっていない。

・市の広報には毎月掲載しており、認知症の方には、別途、年に数回案内している。また、ケアマネジャーや民生委員からの周知も依頼している。

・もの忘れが心配な方は誰でも利用いただける。

- 委員 ・地域ケア推進会議の認知症対策部会に参加している。家族は困っているが、自分は大丈夫だと思っている方に、どう参加してもらうかが課題である。
- 委員 ・市の総合検診で認知症の検査の項目を設けてはどうか。予防的な感覚で早めに受診できると良い。市民が負担しても良いので、ハードルを下げる必要性がある。
- 会長 ・地域包括ケアの充実につながる、良い提案をいただいた。

## (2) 第9期介護保険事業計画の策定について

事務局 (2) について説明

- 委員 ・高齢者いきいきプランは、高齢者福祉と介護保険が合体した計画である。
- 委員 ・高齢者がいつまでも地元地域で、いきいき生活していくことが重要であり、介護が必要になるまでに高齢者と地域のつながりを充実していくことが必要である。しかし、生活支援体制整備事業が十分に活かしていない気がする。
- 事務局 ・ご指摘のとおり、生活支援体制整備事業は大変重要であると認識している。高齢者が暮らしていくにあたって、介護を担う人材が減少しており、介護を受ける方だけでなく、それを支える元気な高齢者の活躍が重要であり、地域での支えあいのためには、支えられる方も、支える方も元気になることを期待している。
- 事務局 ・ここ2～3年、社会福祉協議会と検討を重ね、活動が活発な社会福祉協議会支部を充実し、更に専任のコーディネーターを配置し、取組を進めていくこととしている。
- 事務局 ・現状では、地域において見守りや買い物への声掛けなどの助け合いはあるが、今後は支援が行き届くよう専門家も交え、支援者の負担を軽くするなど、体制の整備を進めていきたい。
- 委員 ・社会福祉協議会支部長の集まりにて、共に支えあう体制づくりのセミナーを実施した。社会福祉協議会は支部が充実しており、そのネットワークを活用して、目の届く活動、事業を推進していきたい。
- 会長 ・総給付費のサービス別詳細について、計画値に対する実績値が上回るか下回るか。どちらを目指すのが良いか、委員での共通認識を持つことが必要ではないか。
- 会長 ・通常計画は目標値を達成することが成功と捉えられるが、介護保険については計画値を実績値が下回る方が、介護予防が上手に出来ていて費用を抑えられていると捉えることもできる。
- 会長 ・どちらが良いのか、委員の皆様も考えながら、検討いただけると良い。
- 事務局 ・会長のご指摘通り、住民要望の観点からは計画値を実績値が下回る方が良いと捉えられるが、サービス提供の観点からは、必要な方がサービスを受けられたのであれば上回って良いと考える。ニーズ調査や実績から設定している数値であり、ある程度は計画通りにいくのが良いが、視点を変えることで見え方が違ってくる。

- 会 長 ・他計画でもパブリックコメントを実施しているが、現実的に市民から提出されるものか。
- 事務局 ・3年前の介護保険事業計画策定時は、パブリックコメントは1件も無かった。ただし、市役所内からの意見はいくつか出てきた。また、地域福祉計画を10年ほど前に策定した際には、民生委員から多くのご意見をいただいた。
- 会 長 ・甲州市介護保険事業者連絡協議会について、どの程度の組織が参画しているか。
- 事務局 ・地域包括支援センターが事務局となり事務局から市内事業者に加盟を働き掛けており、市内ほぼ全ての事業者である28~29事業者が参画している。
- 委 員 ・総給付費サービス別詳細の中で、小規模多機能型居宅介護に実績値が入っているが、市内にそのような施設があるのか。良い事業であるため、市内でサービスを受けられると良い。
- 事務局 ・市内には、小規模多機能型居宅介護事業者はいない。第8期計画において整備を予定しており、新規事業者の公募を行ったものの、応募がない状況である。  
実績については、山梨市にある事業者のサービスを利用協議に基づき利用いただいている方がいるためである。

- 会 長 ・本日は甲州市を取り巻く課題について、意見交換を行いたい。
- 委 員 ・私の母は、現在101歳で、一人暮らしであるが、大変元気で、週に2回トレーニングのために体力づくりのための支援を受けている程度である。  
・日頃の生活を見ると、好奇心旺盛で、趣味があり、食事も身体に良いものであり、それらが自然に身につけている。若いうちから、心がけをすることが基本にあるのではないか。  
・介護が必要にならないように、40代くらいから意識し、一人ひとりが日頃から意識することが大事であると考える。
- 委 員 ・災害や感染症対策で、緊急時手助けが必要な要配慮者について、総務課で策定する地域防災計画に基づき、避難行動要支援者名簿があるが、地域で情報共有ができていないと感じる。個人情報保護の問題により、周辺の方に伝えられないことが現状であり、取り扱いが疑問となっている。
- 会 長 ・ご指摘については、課題として捉えたい。
- 事務局 ・まずは状況を把握させていただく。
- 委 員 ・医療の現場でも介護に携わっている経験からいうと、ケアマネジャーも包括支援センターも迅速に動いていただいている。例えば、依頼すると当日に介護ベッドが届くくらいの早い対応である。いざという時の体制は整っている。  
・介護予防の点について、高齢者人口は増加しているが、80歳でも農家で元気に働く方もいる一方、介護が必要な方もいる。その間にいる方をどう予防していくか、とても大事な視点である。  
・そのような視点から考えると、いきいき健幸教室や出前講座型介護予防事

業（健幸隊）は良い事業であるが、10人以上の仲間を集め、公民館に集合するなど、ハードルが高い事業である。例えば、少人数でも実施するなど、仕組みを状況にあわせて変えていけると良い。

・災害時の対応は、とても重要である。きちんと仕組みを作っていたきたい。

委員 ・地域での介護の担い手を増やすことについて、安心して子育てできる環境づくりが将来に繋がっていくことにはなるのではないかと。そのため、高齢者だけではなく、若者へのアピールが必要である。

・介護予防については、若い年齢から体幹を鍛えるなど、甲州市の将来を見据えた取り組みが必要である。

委員 ・避難名簿は民生委員が主体で担当していたが、10年くらい前から市が主体で進めることになり総務課が担当となった。約2,500人が対象であり、これを整理している段階であると認識している。まだ名簿を共有できていない状況である。

・民生委員は防災のスペシャリストではないが、率先した声掛け、一緒に避難、避難所での住民への寄り添い、相談相手などが役割として捉えている。

委員 ・自動車の運転免許を返納しないでも良いように、また地域に協力していけるように、認知症予防などについては、個人個人で気を付けていく必要がある。

委員 ・7～8年前に山梨大学医学部の先生から、山梨県民は健康寿命がトップクラスであると聞いたことがある。

・本日の資料を見て、きちんと実態調査を行い、多様な方が連携して実践されており、素晴らしいと感じた。

・この計画は、誰に向けた冊子なのか、どう活用していくのか、教えていただきたい。

事務局 ・この計画は、行政計画として推進する施策をとりまとめたものであり、市の事業を進めるうえで活用していく。また、関連する民間事業者においても、活用いただく。市民に対しては、周知していく内容である。

委員 ・市民への周知は、広報等で行うのか。

事務局 ・市民に対しては、この計画に則って進める事業ごとに、周知を図りたいと考える。

委員 ・実態調査について、市民も結果を知りたいと思うが、高齢者の多くはホームページを見ることが難しい。調査結果の周知はどのようにしているのか。

事務局 ・計画策定のために実施した調査であるが、ご提案の通り、市民への周知も重要であり、広報の中でお知らせできるように、今後調整したい。

委員 ・このような計画は、基本理念、目標、施策展開など抽象的な内容となるが、より重要なのが、個別事業で何を展開していくかである。

・3年間の計画であるため多くの羅列は難しいが、出来る限り、具体的な内容を記載できると良い。

・例えば、災害時要支援者名簿の取り扱いについて、地区によって特性が異なるため具体的な避難所の掲載や、地区防災づくりについての記載、

BCP（事業継続計画）を推奨するなどが想定できる。

- 委員
- ・ケアマネジャーへの申請や相談は、買い物に行けない、移動できないなど、既に困っている方からが一般的である。
  - ・経済面・生活面など全体的な状況を把握しながら、一緒に歩いて、一緒に寄り添って対応している。また、適正なプランを立てるようにしている。
  - ・必要な方に必要な支援を提供したいが、山間地の方には提供が難しいサービスや、経済的にサービスを受けることが難しい方もいたりする。医療、福祉、介護、地域の皆様の力を借りながら、進めていきたい。
  - ・人材不足もあり、ケアマネジャーも疲れてしまっている状況にある。介護人材への支援も必要であり、更に新人が入ってきてもらえる業界にしたい。
- 委員
- ・スポーツトレーナーの経験があるため、要介護3以上の方を対象にサポートしている。
  - ・勝沼地域の方は葡萄農家の方が多く、足が強い方が多い印象がある。運動の習慣づけが大変重要であり、市民にも意識を高めていただきたい。

### （3）甲州市地域包括支援センター運営方針について

事務局 （3）について説明

- 会長
- ・特に意見が無いようである。
  - ・このような運営方針に基づいて、運営業務に着手しているということで、委員には了承いただきたい。

### （4）その他

事務局

- ・甲州市地域包括支援センター運営業務委託について、地域密着型サービス公募結果について、介護サービス事業者に対する物価高騰対策支援金の給付について説明

会長

- ・次回協議会は11月を予定している。ぜひ、委員の皆様にはよろしく願いしたい。

事務局

- ・本日いただいた意見を活かしながら取組や計画策定を進めたい。
- ・また、気づいたこと等あれば、事務局までお願いしたい。

閉会 午後5時15分終了